

「宮西倶楽部」にも書きましたが、「有終の美を飾る」とは、「最後までやりとげ、立派な成果をあげること」という意味で使われます。創立58年の大宮西高校のフィナーレという意味においてもそうですが、それよりも皆さんにとっては、残されたこれからの7カ月半の高校生活をどのように過ごすか、それによって、自分の高校生活の有終の美をいかに飾るかということが何より大切です。そしてその最重点事項は、卒業後の進路を、少しでも自分自身が納得のいく形で実現することです。

えー、それじゃ折角の高校生活が楽しくないじゃん、なんて心配には及びません。なぜなら皆さんは、入学からこれまでの2年と3カ月半で、正確には830日間で、並みの高校生の3年以上を十分に楽しんできたから。だから、安心して、進路実現のためのストイックな受験対策に邁進しましょう。特に大学に進学したいと考えている生徒諸君は、これからの半年間は、気が狂うくらい勉強しなさい。まずは今日の昼から9月1日までの夏休み44日と半日は、自分が自分じゃないくらいに勉強漬けになりなさい。

その上で、あー、自分にとっての花の高校3年生は何だったんだろうと悔やむことになるならば、3月になってから悔やみなさい。3年のこの時期になっても、まだ遠い憧れに過ぎない第一志望の大学に、あるいは挑戦することすら考えたこともなかった大学に、青春の半年間と引き換えに、晴れて合格してから悔やみなさい。

大学入学定員の厳格化という現実を突きつけられて、右往左往している間に時間が過ぎていく愚かさを嘆くのではなく、希望の指定校推薦枠に成績が及ばないからと、これまでの830日間の努力不足を今になって嘆くのではなく、例えば今日から約7カ月後、217日後の早稲田の商学部入試を目指して、わき目も振らずに突き進みなさい。卒業式前の3月1日に、早稲田に現役で受かる夢の瞬間を味わいなさい。

少なくとも、今の自分の成績で狙えるかも知れない指定校の2ランク上を狙おう。まだ7カ月もあるのに、挑戦しようもしないで、早々と自分の伸びしろに見切りを付けるもんじゃない。一生のうちで7カ月くらい、とことんのめり込んで勉強してみなさい。